

センタークーラー
ミルク保管用冷蔵庫
取扱説明書

1. このマニュアル目的
2. 注意事項
3. メーカーの識別
4. 冷蔵庫の識別
5. 本製品について
6. 動作説明
7. 設置と使用
 - 7.1 梱包内容の確認
 - 7.2 設置
 - 7.3 電機接続
 - 7.4 接続
 - 7.5 霜取り
 - 7.6 ミルク チューブの取り付け
 - 7.7 清掃とメンテナンス
 - 7.8 特殊メンテナンスと修理
8. 廃棄
9. 保証請求
10. トラブルシューティング

1 この取扱説明書の目的

この取扱説明書は、WMFセンタークーラー用です。センタークーラーの使用方法を説明するとともに、正しい設置のための有用な提案、使用開始の仕方、使用方法、メンテナンス、清掃方法を提供するとともに、危険性や間違った使用方法に伴い起こりうる危険を指摘するものです。

この取扱説明書はセンタークーラーに必要な情報を提供しておりますので、なくさないように保管してください。

この取扱説明書の詳細を説明している幾つかの数値や一部分は、手元にあるセンタークーラーとは、多少異なる部分があるかもしれません。多少の相違が重要な情報を変更するものではありません。

製造者は、この取扱説明書を必要があればいつでも予告なしに更新する権利を有します。

2 警告

安全に正しくこのセンタークーラーをご使用頂くためには、このマニュアルの指針、内容に従ってください。製造者は、この取扱説明書の警告、注意を順守せずに生じたいかなる破損にも責任を問われません。

この取扱説明書に記載されている製品は、飲用のためにミルクおよび乳製品を保管するために製造されています。他の目的には使用しないでください。他のいかなる不適切とみなされる使用は、危険ですでおやめください。

この電気製品は、管理者不在、安全責任者不在の下での子供を含む障害者（感覚能力、精神障害者）や知識や経験の無い人が使用されることを想定されておりません。

子供がこの電気製品で遊ばないように管理してください。

センタークーラーに添付されているラベルは注意深く読み、いかなる場合でも覆わないでください。破損した場合には貼り替えてください。

正常に機能しない場合には、センタークーラーの電源を直ちにコンセントから外してください。

決められたメンテナンス作業以外は、有資格者が行ってください。

センタークーラーの中の凝縮器（コンデンサー）は、暑くなっていたり、先の鋭いエッジがあります。決められたメンテナンス作業以外を実施する際には、電源をコンセントから外し、電気製品が冷めるまで待ってください。メンテナンスや清掃を行う際には、常に現在の安全基準に従った保護具を着用してください。

感電注意” ラベルが貼ってある部品、ケース、カバー等を取り外すと電圧が印加された部品がむき出しになり接触する危険があります。



冷蔵庫は、水のかかる場所には置かないでください。
清掃の際には、毒性のある洗剤は使用しないでください。

冷蔵庫は、熱源のそばに置かないでください。

火災の際には、粉末消火器をご使用ください。

梱包材は、現行法に従い処分してください。

3 製造メーカー

このマニュアルに記載されている製品は、下記のメーカーが設計・製造を行っております。

Vitrifrigo s.r.l.

Via Mazzini, 75 – Fraz. Montecchio

61022 Vallefoglia (PU)

Tel. +39 0721 491080

Fax + 39 0721 497739

Mail vitrifrigo@vitrifrigo.com

4 冷蔵庫の識別

冷蔵庫には識別ラベルがあり、以下の情報が記載されています。

- 型式
- 個別識別コード
- 冷蔵室の容量
- 周囲環境温度
- コンプレッサーの型式
- 電源電圧
- 消費電力(W)
- 消費電流(A)
- 冷媒の種類
- 冷媒の量
- シリアル番号: 桁数 1,2: 製造年
 桁数 3,4: 製造週
 桁数 5,6,7,8: 固有番号

5 概要

このマニュアルに記載されているセンタークーラーは、WMF コーヒーマシン専用開発されたものです。牛乳および乳製品を飲用に適した状態に保存するために温度を制御します。

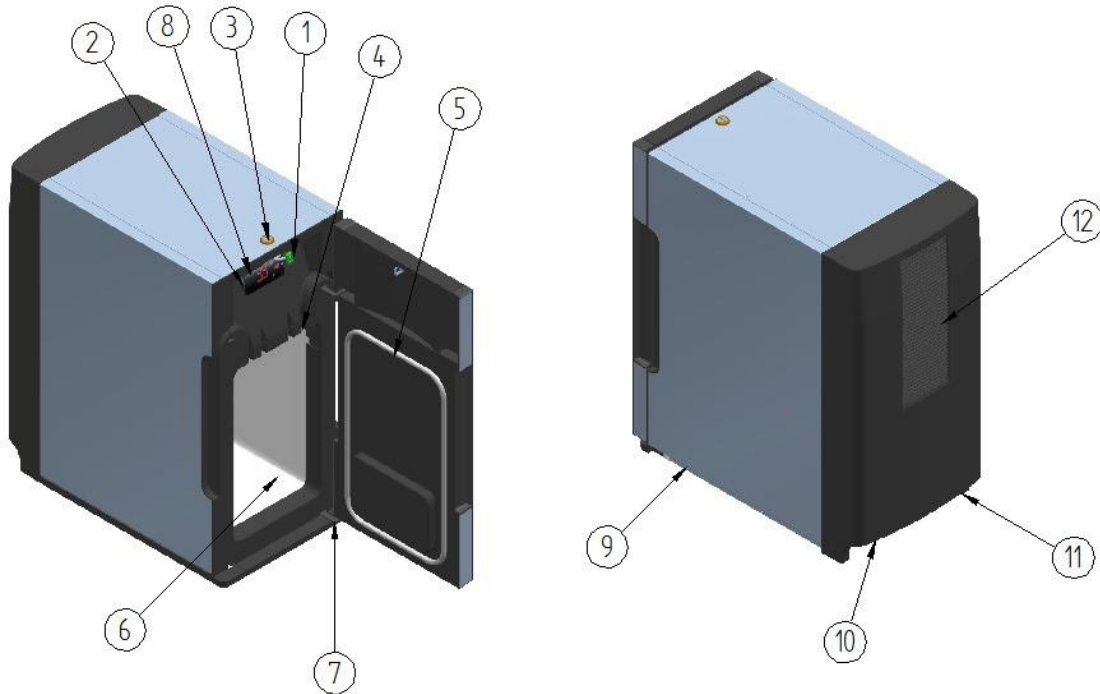


図.1

- 1 主電源スイッチ
- 2 デジタル温度調節器
- 3 鍵
- 4 ミルク チューブ用溝
- 5 取り外し可能ガスケット
- 6 内張り
- 7 扉蝶番
- 8 給気口

- 9 脚
- 10 IEC C13 電源プラグ
- 11 ミルクセンサー コネクタ
- 12 排気口

6 動作説明

このセンタークーラーは蒸気圧縮冷却サイクルによって動作します。蒸気圧縮冷却サイクルにより、内部の熱を外部に移動し、内部に保管した液体を人の飲用に適した事前に設定した温度に一定に保ちます。

冷媒は圧縮機（コンプレッサー）に入る前に、蒸発器（エバポレーター）を流れて通過する際に蒸発することにより空気から熱を取り除きセンタークーラーの内壁を冷やします。圧縮機において、圧力と温度が上昇し、空冷の凝縮器を通過する際に凝縮されます。最後に冷媒は蒸発器（エバポレーター）に毛細管を通過して戻り、循環されます。

センタークーラーの内部温度はセンタークーラーの前面部にあるデジタル温度調節器で変更できます。

7 設置方法と使用開始

1. 梱包の確認

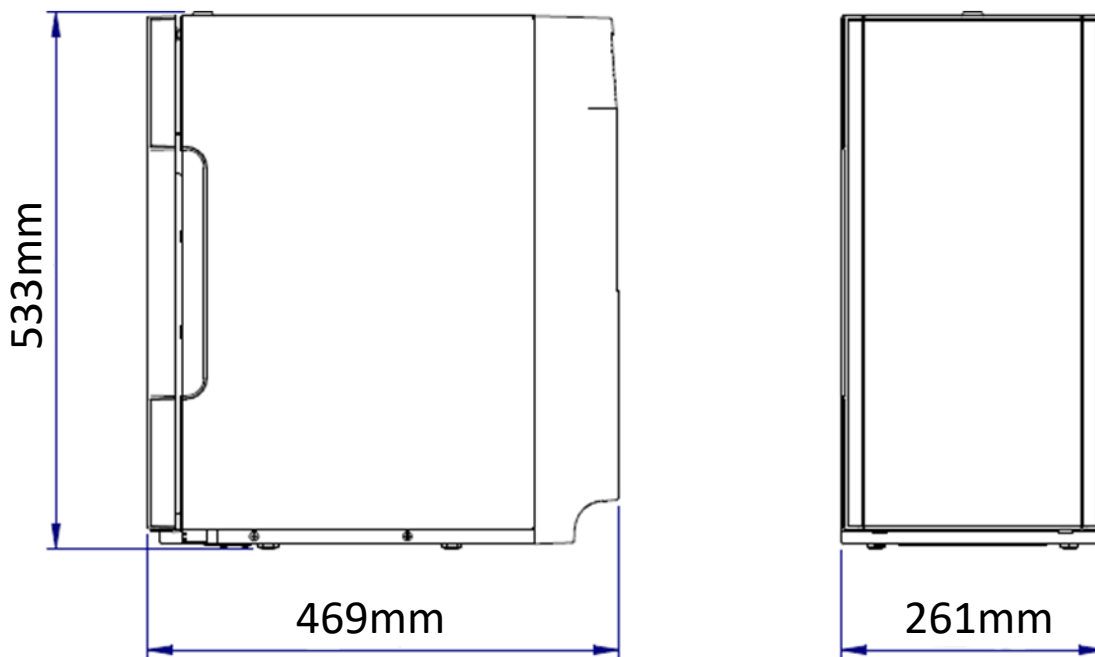
製品が届いたら直ちに輸送中の破損がないかを確認してください。梱包を解き内部の製品に破損や傷等がないかを確認してください。

本体および付属品に破損や不足があった場合には、冷蔵庫を使用しないでください。

破損や変形等があった場合には、製品到着後24時間以内に販売代理店もしくはWMFにご連絡ください。

2. 設置

冷蔵庫は下図の通りの外形寸法となっております。



冷蔵庫は、水平面に設置してください。

冷蔵庫を設置する際には、放熱のため背面と壁の間に少なくとも100mmの空間を確保してください。同様に、冷蔵庫の上面と上側の天井、棚板等の間にも少なくとも100mmの空間を確認してください。冷蔵庫の側面には、特に空間を設けなくても構いません。

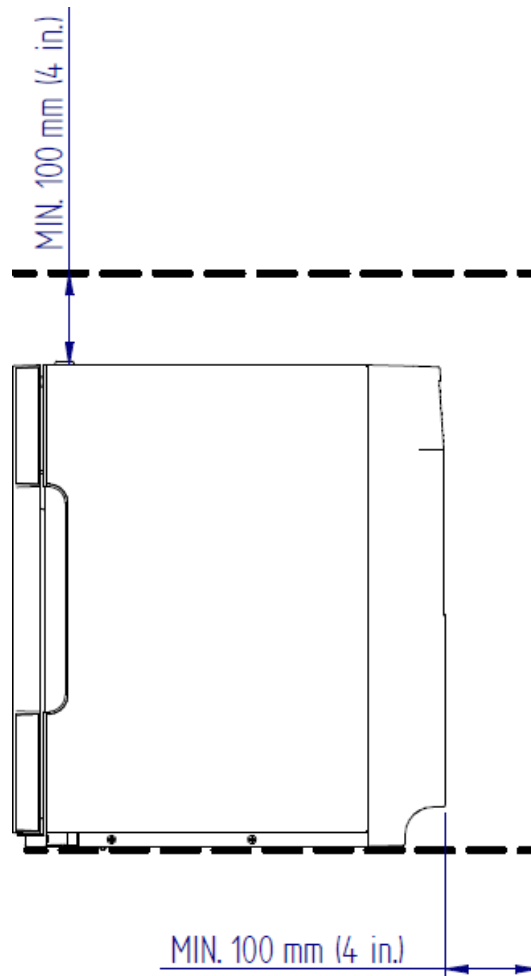


図.3

7.3 電源の接続

センタークーラーにはIECのソケットと正面パネルの主電源スイッチが備えられています。電源ケーブルは、センタークーラーに同梱されています。

センタークーラーに主電源ケーブルを接続する前に、電源と製品ラベルの仕様が一致しているかご確認ください。（電圧、単相もしくは三相、周波数、アンペア数）

センタークーラーをアース（接地、グラウンド）に接続することは必須です。センタークーラーは必ずアースに接続し、電氣的に接地できていることを確認してください。

上記の取り扱い説明を遵守せずに起こったいかなる損害や責任を製造者は負いません。

電源ケーブルをセンタークーラーに接続する際、アダプター、および、複数口のコンセント（たこ足配線）、延長コードに接続することは好ましくありません。使用する際には、安全基準に従い、決して電流の許容値を超えないようにしてください。

7.4 使用方法

センタークーラーの前面パネル部には、ミルクコンテナからミルクを吸い上げたミルクチューブをセンタークーラーの内側に取り付けるための溝があります。



図.4

センタークーラーは付属のミルクコンテナと共にご使用ください。ミルクコンテナの蓋は必ず閉じてご使用ください。

センタークーラーの前面にはデジタル温度調節器が備え付けられています。



センタークーラーのスイッチを入れる

センタークーラーのスイッチがスタンバイ状態で入っているとき、自動温度調節器の表示は、内部の温度と“OFF”を交互に表示します。



スタンバイ状態を解除し、センタークーラーの電源を入れるには、 ボタンを3秒以上押し続けます。“ON”が表示された後、直ぐに温度表示に変わります。

電源が入ると、センタークーラーは稼働を開始します。内部が設定温度に到達するにはしばらく時間が掛かります。（外部温度の影響を受け時間は変化します。）

内部温度が設定温度に到達してから、飲用のミルクおよび乳飲料をセンタークーラーに入れてください。

温度設定

希望温度に設定するには、**set** ボタンを温度が点滅するまで押します。温度が点滅を始めたら温度を調整します。

▲ ボタンで温度を上げます。▼ ボタンで温度を下げます。; 設定した温度保存するには再び **set** ボタンを押します。

注: ミルクの温度は常にHACCPで許容されている温度範囲で設定してください。

注: センタークーラーの温度は、自動温度調節器（サーモスタット）の設定温度を下げることで、想定した温度より低温で作動させることが出来ます。

しかしながら、想定温度を外れた温度での飲用のミルクおよび乳飲料の保管は、センタークーラーで行わないようにしてください。センタークーラーは飲用のミルクおよび乳飲料を保管するように設計されており、室温からの冷却は行わないでください。

残量計の機能

センタークーラーにはミルクの残量計があります。おおよそ容器の中のミルク残量が0.5 l 以下になると警告を出します。センタークーラーには2つのミルク残量計がオプションで設定されています。これは、2種類のミルクおよび乳飲料を2分割されたコンテナで使用するための物です。

センタークーラーはWMFのコーヒーマシンに接続してご使用ください。残量のアラームは、コーヒーマシンに表示されます。

注: センタークーラーは付属のミルクコンテナを使用する前提で設計されています。ミルクコンテナをご使用にならないと、残量のアラームは常に表示されたままになります。


センタークーラーのスイッチ切る

センタークーラーのスイッチを切るには ▲ ボタンを3秒以上押してください。

7.5 霜取り

冷蔵庫を長期間ご使用になりますと、内部に霜が付くことがあります。


内部の霜が熱く付着した場合は、消費電力の増加を避け、効率を保つためにセンタークーラーの霜取りを行うことを推奨します。

センタークーラーの霜取りを行うには、自動温度調節器（サーモスタット）の ▲ ボタンを3秒以上保持しながら押し、スイッチをオフにしてください。霜取りを速やかに行うにはセンタークーラーのドア開けておくこと推奨します。

決して工具や器具を使用して、センタークーラーの内の氷を取り除かないでください。センタークーラーの内壁に接触している蒸発器（エバポレーター）に傷を付ける恐れがあります。

上記を守らずに起こったセンタークーラーの損傷は保証されません。

注: 霜取りを行っている最中は、ミルクをコンテナに入れたままセンタークーラー内に入れておかないで下さい。

霜取りの最後に、センタークーラーの内部を清掃し、乾燥した後、自動温度調節器（サーモスタット）の ▲ ボタンを3秒以上保持しながら押し、スイッチを入れてください。

6. ミルク チューブの取り付け。

センタークーラーからミルクを汲み出す装置は、以下の部品から組み立てられています：

- ミルク コンテナ①;
- シリコンチューブ ②;
- ミルク チューブ接続部品③;
- ミルク コンテナ キャップ ④;
- ミルク チューブ;

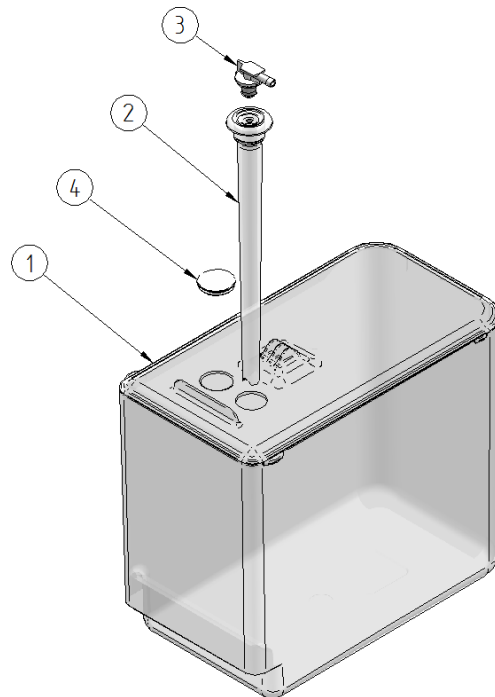


図.5

センタークーラーは、1台もしくは2台のコーヒーマシンのご使用いただけます。

1台のコーヒーマシンのご使用いただくには、シリコンチューブ②、ミルク コンテナ キャップ④を使用します。 図6.A参照

2台のコーヒーマシンのご使用いただくには、シリコンチューブ②2本を使用します。 図6.B参照

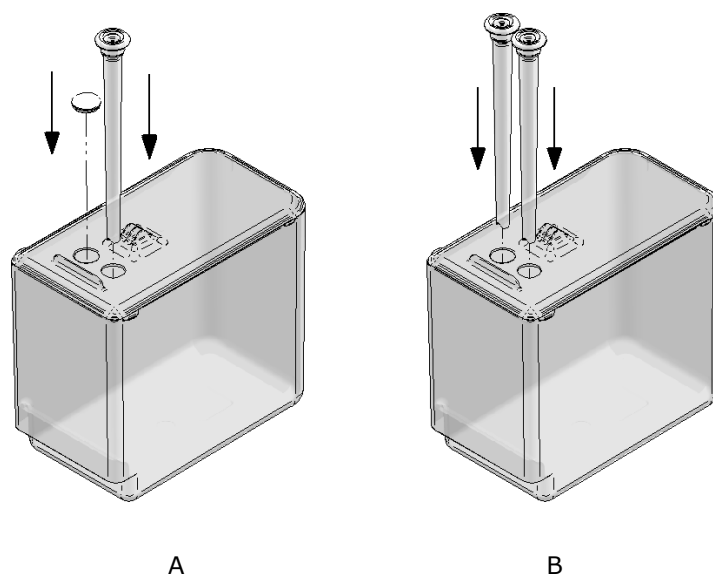


図. 6

図6に示したセンタークーラーをコーヒーマシン1台もしくは2台使用するいずれの場合も、ミルクチューブ接続部品③をシリコンチューブ②の穴に接続し、ミルク チューブを図7の様にあらかじめ取り付けおきます。

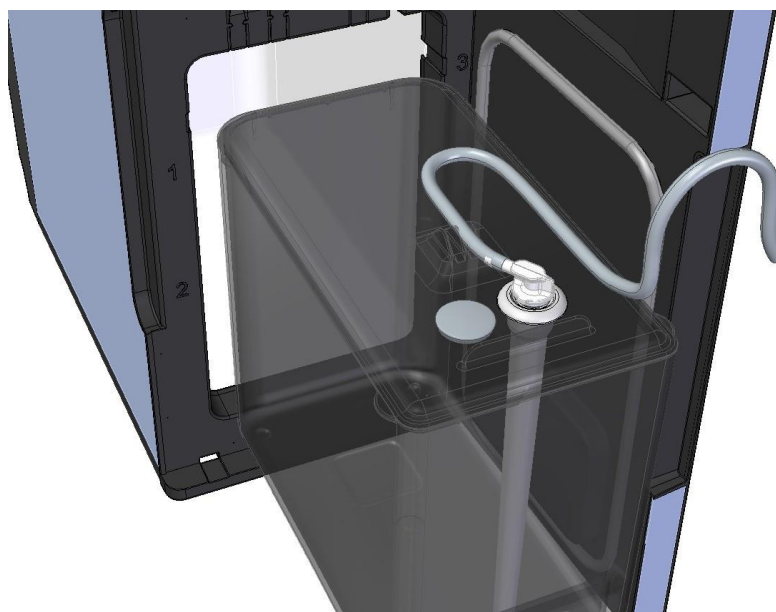


図. 7

ミルク チューブの望ましい固定方法は、ミルクコンテナの蓋の溝に入れることです。 具体的な取り付け方法は、蓋の上面の溝に図8のようにチューブを入れてください。

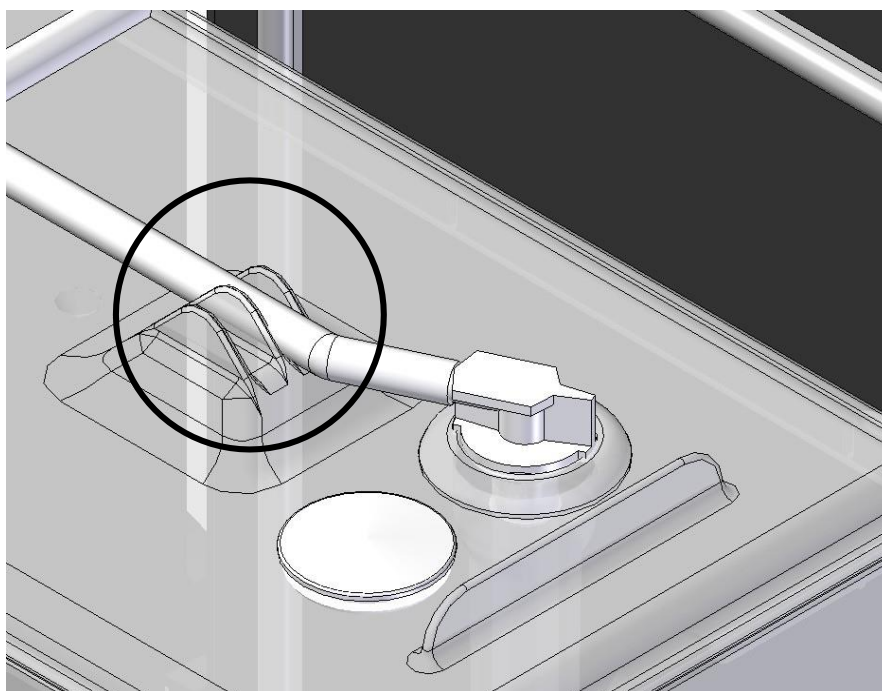


図. 8

ミルクコンテナをセンタークーラー内にいれ、ミルクチューブを溝に通してください。

図9にミルクチューブの具体的な通し方を示しています。オレンジ色で示した箇所にはミルクチューブを通す際には、ミルクチューブは固定されている必要があります。ミルクチューブを前面パネルの奥まで押し込みます。

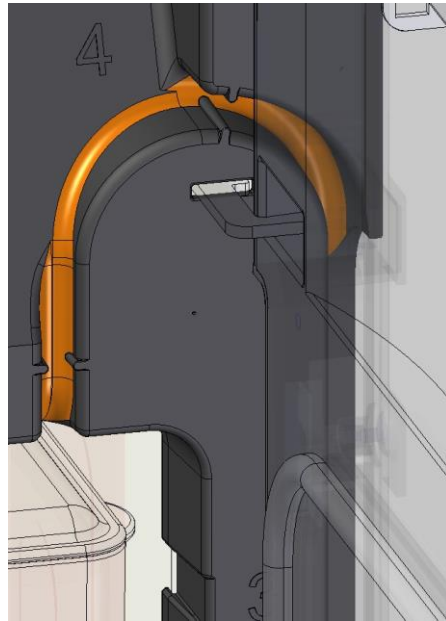


図. 9

センタークーラーの黒い前面パネルには4本のチューブ用の溝があります。溝は図10にオレンジ色で判り易く示してあります。

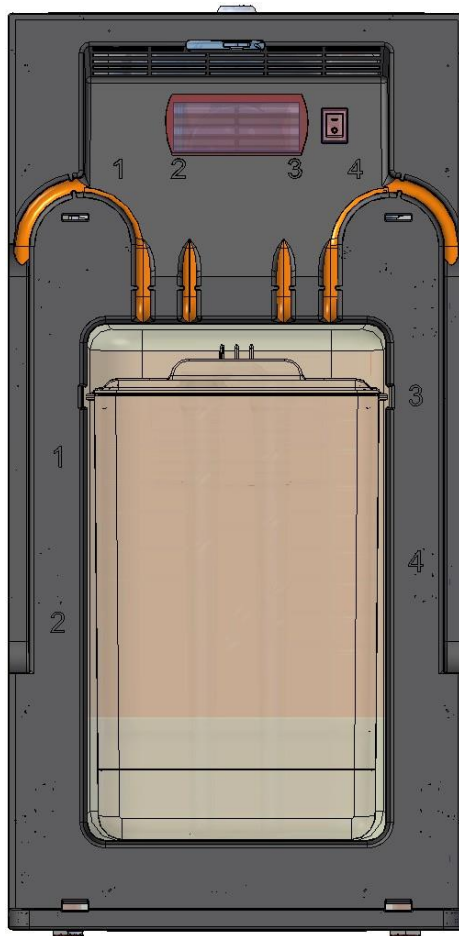


図. 10

センタークーラーを2台のコーヒーマシンで使用する際には、図10に示した黒色前面パネルの溝1と4を使用してください。
センタークーラーを1台のコーヒーマシンで使用する際には、溝1もしくは溝4をコーヒーマシンに位置によって選択し、使用して下さい。
ミルクチューブが入っていない溝は、シリコンキャップで塞いでください。(図11)



図. 11

図12に示すように、ミルクチューブが入っていない溝には、シリコンのキャップを挿入してください。

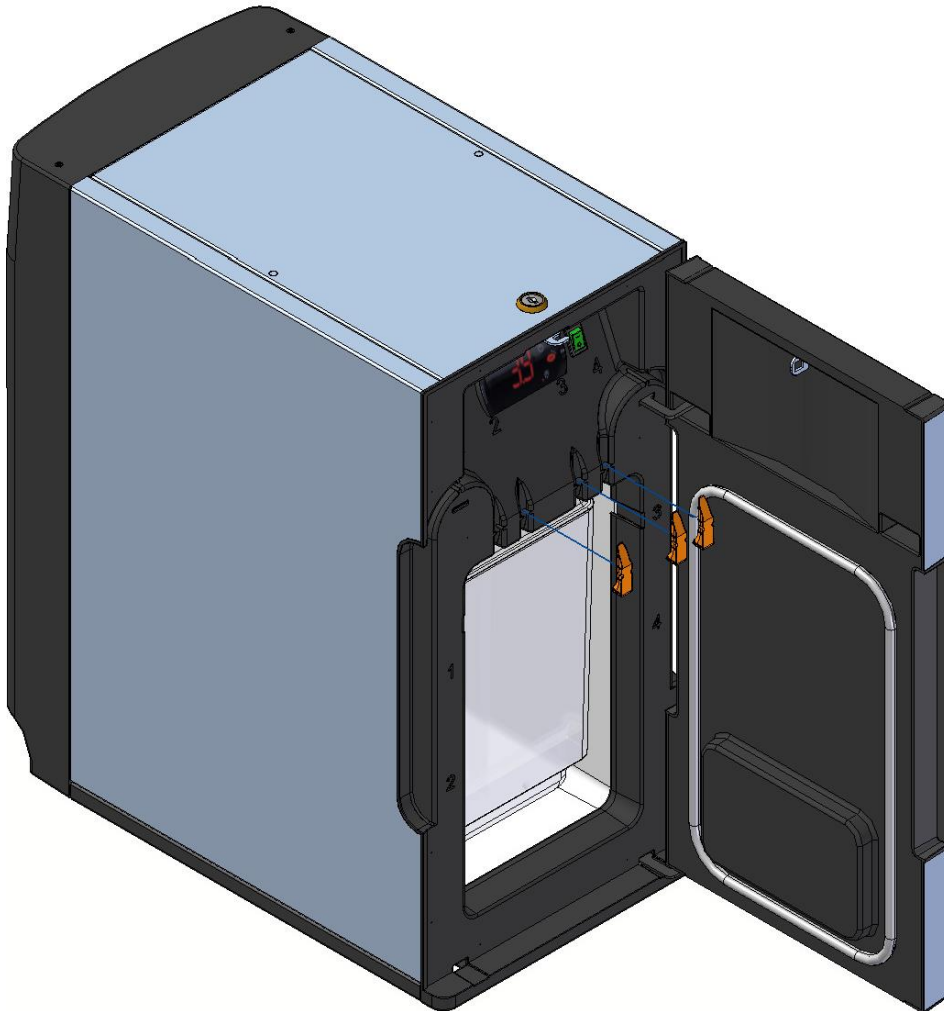


図. 12

使用していない溝は必ずシリコンキャップで塞いでください。塞いでいないとセンタークーラー内の冷気が漏出してしまいます。
この章の項目を実施後、センタークーラーの扉を閉じミルクチューブをコーヒーマシンに接続してください。

7.7 清掃とメンテナンス

現在の安全衛生法において、オペレーターは食品が接触する部分の衛生状態に責任があります。細菌が繁殖しないよう清潔な状態を維持してください。



センタークーラーを清掃したりその他のメンテナンスを実施する前に、必ず電源をコンセントから抜いてください。

食品に直接触れない表面は除菌剤を使用可能です。

センタークーラーの外装は、お湯拭き、水拭きを行い、その後乾いた柔らかい布で拭いてください。研磨剤は使用しないでください。

センタークーラーの内側は、飲用のミルクまたは乳製品コンテナを取り出したのち、お湯拭き、水拭きを行ってください。油分を取り除くには少量の酢を使用してください。水拭きを行い、乾いた柔らかい布で拭いてください。研磨剤や除菌剤、洗剤は使用しないでください。

センタークーラードア内側のヒンジ部分（下図の赤丸部）は、付属のブラシで清掃してください。

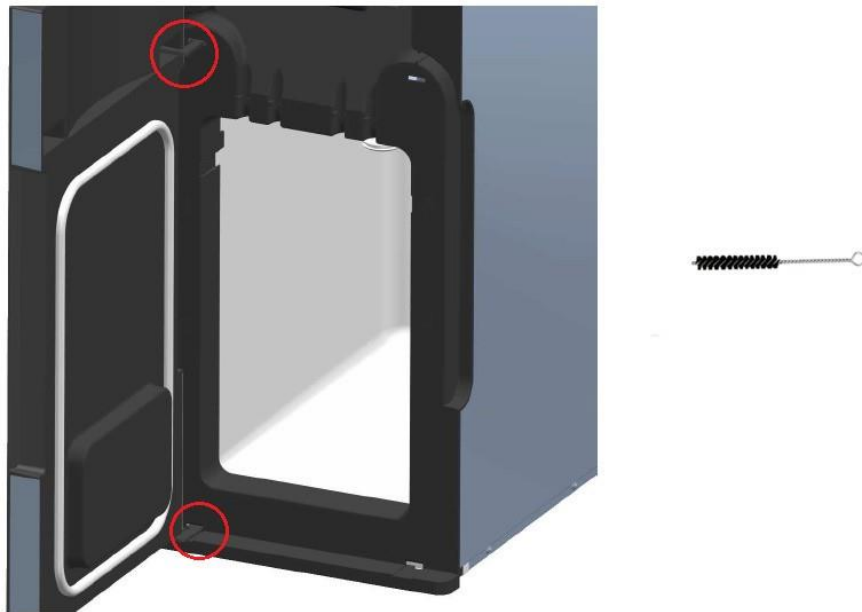


図. 13

センタークーラー背面の空冷の凝縮器（コンデンサー）換気口に誇りがたまって否か確認をお願いします。一部分にでも埃がたまっていたら、掃除機で清掃し取り除いてください。

しばらくセンタークーラーをご使用にならない場合は、センタークーラーの電源コンセントを抜き、中身を空にしてください。内部を清掃し、ドアを少し開けた状態にして、カビが発生したり、不快な臭いが籠ったりしないようにしてください。


7.8 定常以外のメンテナンスおよびサービス作業

センタークーラーの定常以外のメンテナンスおよびサービス作業は、資格を持ったサービス作業員のみが行えます。

センタークーラーの安全と衛生の知識と実践の経験を持ったサービス作業員のみが分解修理を行えます。

8 廃棄

センタークーラーをご使用にならなくなった場合は、家庭用品ゴミとして廃棄しないでください。また、再生処理場でも処理できません。

このことは製品ラベルの  シンボルで示されています。

現行法で認可されている、冷蔵庫を処理できる業者に廃棄を依頼してください。

正しく処分されないと、センタークーラーの冷媒が環境に害を及ぼす恐れがあります。

センタークーラーの冷媒は、通常のゴミ一緒に廃棄してはいけません。

センタークーラーの間違った廃棄、もしくは不法投棄は行政処分の対象および、もしくは、有罪となりえます。

9 保証クレーム

保証期間は、お客様に到着した日より開始されます。

販売会社は、適切な期間修理を行うことができます。

上記の期間過ぎたクレームや間接的損害は、法律に許される範囲において免責されます。

原材料の不良は、文書にて販売会社に直ちにご連絡ください。

以下の項目は保証対象外となります：

- ドアのシールを含め、自然な摩耗や亀裂
- 周囲環境温度に起因するもの、化学物質、電気化学、電気等に起因するもの
- 取扱説明書に記載されたメンテナンス方法、清掃方法および法令に従わずに起こった故障
- お客様、第三者による純正以外の交換部品の使用、間違った組付けに起因する誤動作、間違った使用方法、手入りを怠ったことに起因する誤動作
- WMFの同意なしに行った不適切な改造、お客様自身もしくは第三者による修理
- 不適切な使用もしくは間違った使用による障害

下表は、センタークーラーが正しく動作しない場合に確認を推奨する項目です。

下表を確認しても、センタークーラーが正常に動作しない場合は、WMFジャパン、もしくは、代理店にご連絡ください。

問題	考えられる原因	解決方法
センタークーラーが起動しない。	電源	電源ケーブルコンセントに正しく差し込まれているか確認してください。 主電源スイッチが「I」の位置にあることを確認してください。 ブレーカーが落ちていないか確認してください。 コンセントに電気が来ていることを確認してください。 電源ケーブルに傷がないか、また、壊れていないかを確認してください。
	自動温度調節器 (サーモスタット)	デジタル温度調節器（サーモスタット）がONになっているか確認してください。
センタークーラーから異音がする。	設置状態	センタークーラーが水平に設置されているか確認してください。 センタークーラーが家具やその他の振動する者と接触していないか確認してください。
	冷媒管	冷媒管や圧縮機（コンプレッサー）等その他の部品が接触していないか確認してください。この確認は、専門家（有資格者、サービス技術者）のみが行えます。
センタークーラーが冷えない。	ドアの密閉	ドアが閉まっているか、ドアのガスケットに破損がないか、何か挟まっていないか確認してください。
	設置位置	センタークーラーが熱源のそばに設置されていないか確認してください。
	凝縮器 (コンデンサー)	センタークーラーの凝縮器（コンデンサー）が冷却されるように、背面と上面に10cmの空間が確保されているか確認してください。 凝縮器（コンデンサー）のファンが回っているか確認してください。 凝縮器（コンデンサー）に誇りがたまっていないか確認してください。 必要があれば清掃してください。
	霜取り	センタークーラーの内部が氷で覆われていないか確認してください。 必要があれば、霜取りを行ってください。